

新型コロナウイルス感染症に対する対応について（ご報告）

日本赤十字社大阪府支部
令和 3 年 9 月 1 日現在

日本赤十字社大阪府支部及び大阪府内の各施設においては、クルーズ船への救護員の派遣にはじまり、国・自治体の取組みへの協力、コロナ禍での災害への備えなど様々な活動を展開しております。

I. 医療救護活動

[1] クルーズ船での医療救護活動

日本赤十字社は、厚生労働省からの派遣依頼に基づき、横浜港に停泊中のクルーズ船乗員乗客の健康管理を目的に、令和 2 年 2 月 10 日から救護員（医師・看護師等）を延べ 67 人及び日赤 DMA T を延べ 75 人派遣しました。

また、埼玉県内の一時滞在施設に滞在している武漢市からのチャーター便による帰国者及びクルーズ船からの下船者（PCR 陰性）の経過観察を目的に、令和 2 年 2 月 7 日から医療従事者を延べ 113 人派遣しました。

表 1. 大阪府支部から派遣した救護員

班名	派遣期間	活動場所	人数
第 1 班	令和 2 年 2 月 16 日～18 日	横浜港	4 人 (大阪赤十字病院)



図 1. クルーズ船に向かう救護班



図 2. 24 時間オンコール体制で対応する様子

[2] 大阪府調整本部の業務支援

大阪府からの派遣依頼に基づき、感染者の入院先調整業務等を支援するため、大阪府調整本部（入院フォローアップセンター）へ大阪府支部職員（看護師）を派遣するとともに、大阪赤十字病院OG（看護師）及び高槻赤十字病院OG（看護師）が協力しています。

表2. 大阪府支部から派遣した職員

派遣期間	活動場所	派遣人数
令和2年4月6日～ 令和2年5月19日	大阪府庁	延べ29人 (日本赤十字社大阪府支部)
令和2年7月29日～ 令和2年9月30日	大阪府庁	延べ26人 (日本赤十字社大阪府支部)
令和2年11月2日～ 令和3年2月18日	大阪府庁	延べ49人 ※ 上記以外に大阪赤十字病院OG 及び高槻赤十字病院OGが協力
令和3年4月5日～	大阪府庁	当支部看護師2名を派遣中 ※ 上記以外に大阪赤十字病院OG 及び高槻赤十字病院OGが協力



図3. 受入病院と連絡を取り合う看護師



図4. 入院フォローアップセンターの様子

[3] 軽症者等の宿泊療養施設への救護員の派遣

大阪府からの派遣依頼に基づき、軽症者等の宿泊療養施設（ホテル）での受け入れの立ち上がりを支援するため、救護員（医師、看護師、薬剤師）を派遣しました。また、株式会社NTTドコモ関西支社から携帯電話10台を無償で貸与いただき、活動する救護員の連絡手段として活用いたしました。

表3. 大阪府支部から派遣した救護員

派遣期間	活動場所	派遣人数
令和2年4月14日～21日	大阪市西区	延べ26人 (大阪赤十字病院及び高槻赤十字病院)
令和2年4月22日～25日	大阪市住之江区	延べ9人 (大阪赤十字病院及び高槻赤十字病院)



図5. 患者情報を確認する看護師



図6. 感染拡大を防止するための受診体制
を確認する救護員

[4] 大阪府の入院患者待機ステーションへのDMA Tの派遣

大阪府からの派遣依頼に基づき、入院患者待機ステーションで活動するため、DMA T隊員（看護師、業務調整員）を派遣しました。

表4. 大阪赤十字病院から派遣したDMA T隊員

派遣期間	活動場所	派遣人数
令和3年5月2日～4日	入院患者待機 ステーション	延べ6人 (大阪赤十字病院)

[5] 重症患者対応を支援するため看護師を大阪府内の病院等に派遣

厚生労働省等からの依頼に基づき、新型コロナウイルスの第4波により病床がひっ迫した大阪府内の病院等を支援するため、全国の赤十字病院から看護師が派遣されました。

表5. 全国の赤十字病院から派遣された看護師

派遣期間	活動場所	派遣元の赤十字病院	派遣人数
令和3年4月20日～ 令和3年6月30日	大阪コロナ 重症センター	富山、京都第一、 松江、高知	6人
令和3年4月20日～ 令和3年5月5日	高槻赤十字病院	伊勢、姫路、松江、高知	4人
令和3年6月1日～ 令和3年6月21日	関西医科大学 総合医療センター	八戸、仙台、石巻、那須、 足利、前橋、高知	8人



図7. 意識のない重症患者のケアを行う看護師



図8. 大阪コロナ重症センターで活動する看護師

写真：渋谷敦志

II. 災害時の医療救護活動への備え

[1] 感染症対策のために必要な装備資機材の備蓄

コロナ禍であっても地震や台風などの災害が発生する可能性があることから、いつでも救護班を派遣し医療救護活動を実施できるようマスク・フェイスシールド・医療用ガウンなど必要な装備資機材の備蓄を増強しました。

整備資機材	数量
サージカルマスク	1,050 枚
携帯用手指消毒液	392 個
フェイスシールド	350 枚

整備資機材	数量
N95 マスク	350 枚
携帯用手指消毒液	2,100 枚
医療用ガウン	1,050 枚

[2] コロナ禍における避難所運営訓練

令和2年6月に大阪府から公表された避難所運営マニュアル作成指針（新型コロナウイルス感染症対応編）に基づき、従来の避難所開設・運営との違いを行政職員と一緒に実地で確認する訓練に参加しました。赤十字からは、衛生用品の使用や消毒方法について助言し、防護服（マスク、手袋、フェイスシールド、ガウン）の着脱方法についても説明しました。

表 6. 訓練日程

実施日	主催	場所	人数
令和2年 7月 20日	大阪府 八尾市	八尾市立南の木防災体育館	7人 (日本赤十字社大阪府支部 及び大阪赤十字病院)
令和2年 7月 22日	大阪府 堺市	元堺市立原山ひかり小学校	8人 (日本赤十字社大阪府支部 及び大阪赤十字病院)



図 9. 避難所受付での手指消毒を実演する職員



図 10. 防護服の着脱方法を指導する職員

[3] 日本赤十字社大阪府支部災害対策本部要員研修会

令和3年8月25日、大阪赤十字会館において、当支部職員を対象とした災害対策本部要員研修会を開催し、災害を想定した「災害対策本部要員の災害対応」演習、平時に会議室として使用しているスペースの「ロジスティクス中継基地及び災害対策本部」設置実習、衛星通信や大型情報モニターを用いた「通信資機材や情報端末の設定」実習、災害時の様々な情報を収集・集約する「クロノロジー実習」等を行いました。



図 11. 簡易ベッドの設営方法を確認する様



図 12. 情報通信機器の使用方法を確認する様子

[4] 日本赤十字社大阪府支部資機材習熟研修会

令和2年9月11日及び令和3年2月19日、大阪赤十字会館及び大阪赤十字病院ロジスティクスセンターにおいて、当支部職員を対象とした資機材習熟研修会を開催し、災害救護資機材の搬入・搬出、災害現場で医療救護班が事務作業を行う「オフィステントの設営」、災害発生直後等における既存の通信インフラが破壊された状況下での「通信環境の構築」、「無線機」を使用した実習、「EMIS（広域災害・救急医療情報システム）」の講義、「トラックや緊急車両」の運転等を行いました。



図 13. 資機材を搬出している様子



図 14. EMIS の講義を受けている様子

[5] 日本赤十字社大阪府支部救護員研修会（感染症対策）

コロナ禍での災害救護活動を安全かつ適切に行うため、「感染症に対する知識」や「災害救護活動時の感染対策」などについて、大阪赤十字病院や日本赤十字社和歌山医療センターの医師から映像配信型で講義いただき、救護員の感染対策にかかる知識向上を図りました。



図 15. オンライン研修を受講する支部職員

III. 各種支援物資の受付と配分

[1] マスクの確保と地区・分区への提供

令和2年4月10日に大阪府日中友好協会の紹介により、中国企業からマスク15万枚の寄贈を受けました。地域の保健医療活動・地域福祉活動を推進されている地区・分区に対し、提供しました。



図 16. マスクを大阪府支部において受贈



図 17. 寄贈されたマスクを支援物資として配分

[2] 支援物資の受付・活用

多くの企業団体から、マスクを始め、フェイスシールド、防護服など不足していた様々な支援物資を寄贈いただき、大阪赤十字病院、高槻赤十字病院、大阪府赤十字血液センター及び大阪府支部で活動に役立てました。

IV. 感染拡大の防止を訴える啓発活動

[1] 啓発用資材や動画等の発信

ホームページやフェイスブック、ユーチューブ等、様々な媒体を通して感染の拡大を防ぐために大切なお知らせを発信しています。

[2] 「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！」の活用

新型コロナウイルス感染症は、“3つの顔”を持っており、これが“負のスパイラル”としてつながることで、更なる感染の拡大につながっています。

日本赤十字社では、この“負のスパイラル”を知り、断ち切るためのガイドラインとして「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！」を作成しております。

新型コロナウイルス感染症に関する教育教材として、大阪府教育庁を通じて府内の小・中・高等学校等に対して案内し、多くの学校で活用されています。大阪府の府民文化部人権局のホームページでも取り上げられ、広く活用されています。

また、ご依頼のあった赤十字奉仕団、学校、自治会などにおいてこれを題材に講演を行いました。



図 18. 新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！



図 19. 地域の学校や公民館などで「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！」を説明する職員

V. 各種相談窓口の開設

[1] 「こころの健康相談」の実施

新型コロナウイルスによる感染症の蔓延が続く中で、初めての隔離や自宅待機を経験した方が、大変な思いをしていたり、その方を支える家族・友人・職場の方もどのように接したらよいか、迷われたりすることも少なくありません。そのような皆さまの新型コロナウイルス感染症による不安や自粛生活に伴う悩みなどを受け付ける「こころの健康相談」窓口を開設し、こころの健康相談を受け付けました。

表 7. 相談件数

開設期間	相談件数
令和2年5月8日～ 令和3年3月31日	16件



図 20. 窓口で相談による職員（看護師）

[2] 「高齢者の家庭介護相談」の実施

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、通常の介護サービスが受けることができず、高齢者介護に不慣れな家族が対応している家庭が増えています。そのような家族の方に、ちょっととした介護のコツを知っていただき、お困りごとに個別対応するため「高齢者の家庭介護相談」窓口を開設し、高齢者の家庭介護相談を実施しました。

表 8. 相談件数

開設期間	相談件数
令和2年5月26日～ 令和3年3月31日	2件

VI. 大阪府支部ボランティア・奉仕団の活動

[1] 裁縫ボランティア

大阪市西成区愛隣地区の訪問看護ステーションが立ち上げた「あいりん手作りマスクプロジェクト」に10人以上の裁縫ボランティアが参加し、マスクの作成に協力しています。マスクの布地やゴム紐等は、大阪日赤有功会から寄付をいただいています。



図 21. 色とりどりの生地を使ってマスクを作製する裁縫ボランティア

[2] 地域赤十字奉仕団

9月4日に毎年大阪府で行われる「大阪880万人訓練」の時期にあわせ、日頃からの防災や災害時の食の確保等を啓発する活動である「一日赤十字デー」を7つの市町村（堺市中区、池田市、吹田市、守口市、豊能町、熊取町、千早赤阪村）で実施しました。

当日は、地域の日赤担当窓口や赤十字ボランティアの皆さんを中心となり、各役所に来訪された方々や街頭の人々に対して災害食のレシピ等の資料と併せて、「新型コロナウイルスの3つの顔」を配布し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を訴えました。



図 22. パンフレットを配布する地域奉仕団



図 23. 感染拡大防止を訴える展示ブース

VII. オンライン講習の開催

[1] オンライン講習の実施

コロナ禍において、集合型での講習実施が難しくなりましたが、突然の心停止に対応するAED・心肺蘇生の普及は重要であり、当支部では人との接触を心配せずに開催できるオンライン講習を取り入れて実施しています。

表 9. 実施回数・受講者数

実施期間	実施講習	実施回数	受講者数
令和2年9月～ 令和3年3月	救急法 幼児安全法	16回	412人
令和3年4月～	救急法 幼児安全法 健康生活支援講習	25回	792人



図 24. オンライン講習で心肺蘇生やAEDの使い方を指導する救急法指導員

[2] 対面講習における感染対策の強化（大阪日赤有功会からのご支援）

新型コロナウイルス感染対策（接触防止）のため、対面で実施する心肺蘇生の講習では、受講者1人につき蘇生人形1体を使用することに変更しました。

そのため、蘇生人形の数が不足しましたが、大阪日赤有功会からのご支援により蘇生人形を購入することができました。

表 10. 購入数

年度	購入数
令和2年度	12体
令和3年度	4体



図 25. 寄贈いただいた蘇生人形

VIII. 大阪府管内施設の活動支援

[1] 大阪赤十字病院・高槻赤十字病院の支援

大阪赤十字病院及び高槻赤十字病院では、厚生労働省はじめ各行政機関からの要請に応じ、接触者発熱外来の設置や新型コロナウィルス感染症の患者の受け入れ、治療にあたっています。

当支部では、新型コロナウィルス感染症患者の受け入れに要する機器等の整備のため、大阪赤十字病院及び高槻赤十字病院に対して資金を送金し、支援しています。

表 11. 送金日及び送金額

送金日	送金額
令和2年5月8日	4,000万円（1病院あたり2,000万円）
令和3年4月30日	4,000万円（1病院あたり2,000万円）

<大阪赤十字病院>



図 26. 陽性重症患者の管理を行う看護師

<高槻赤十字病院>



図 27. 感染防止を徹底して治療にあたる医師



図 28. 陽性患者にリハビリを実施する
理学療法士



図 29. 夜中に陽性患者の看護を行う看護師

[2] 赤十字血液センターの支援

大阪府赤十字血液センターでは、外出自粛やイベント等の中止に伴い、献血者が減少している中で、輸血医療に使用される血液の確保に努めています。

また、令和3年1月からは、献血の呼びかけを応援するため、支部職員を派遣し、血液センター職員と一緒に呼びかけを行いました。

表 12. 大阪府支部から派遣した職員

派遣期間	活動場所	派遣人数
令和3年1月18日～	献血ルーム	延べ24人
令和3年2月22日	献血バス (日本赤十字社大阪府支部)	



図 30. 非接触体温計を使っての検温



図 31. コロナ禍で血液不足が心配される中、献血の呼びかけに協力する支部職員(右端)